

第65期 株主通信

2006年6月1日～2007年5月31日

$C \times \text{TOYO TANSO} = \infty$

TOYO  
Ⓚ 東洋炭素株式会社

証券コード 5310

# C

## 東洋炭素グループは、 カーボンの可能性を追求し 世界に貢献します。

元素記号C、原子番号6、カーボン（炭素）。最も古くから知られる元素のひとつが、最も新しい素材として注目される理由は、その優れた特性にあります。私たち東洋炭素は、無限の可能性を秘めたカーボンに魅せられ、飽くなき挑戦を続けてきました。いまや身近な生活空間から原子力・宇宙航空などの先端分野まで、様々な領域で東洋炭素の画期的なカーボン製品が活用されています。

しかしながらカーボンのチカラはまだこんなものではありません。もっと先へ、もっと未来へ。私たちの挑戦は続きます。

### 先端領域

原子力  
宇宙航空  
医療

### エレクトロニクス 領域

単結晶シリコン製造装置  
太陽電池製造装置  
化合物半導体製造装置

### 輸送機器領域

バンタグラフ用すり板  
自動車部品

カーボンへの期待が  
新しい製品と用途を生み出します

### 電気領域

発電機用ブラシ  
掃除機用ブラシ  
電動工具用ブラシ

### 一般産業機械 領域

産業機械用軸受  
放電加工用電極  
金属冶金用鑄型

## 拡がる高機能カーボンへの期待に込めて

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第65期株主通信をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期の業績につきましては、シリコン半導体、太陽電池、LED関連製造用途を始め、あらゆる分野において活発化した需要を積極的に取り込むとともに、更なる高付加価値化・生産性改善等に努めた結果、大幅な増収増益を達成することができました。

高機能カーボンへの期待は、環境、エネルギー、エレクトロニクス関連を中心に、さまざまな分野においてグローバルベースで広がっています。中でも、主力の等方性黒鉛につきましては、かつてない勢いで需要が増加しており、当企業グループでは、これに呼応した増産体制の構築を急ピッチで進めています。既に業界に先駆けて年8,000トンから11,000トン体制への増強を順次実現中ですが、更に大幅な能力増強を実施し2009年秋に年15,000トン体制を確立することを、このたび決定いたしました。

今後、これらの等方性黒鉛の生産能力増強を背景に、事業拡大とグローバル展開のスピードを上げるとともに、更なる高付加価値化・差別化を進め、業界において質・量ともに揺ぎ無い優位性を確保し続けていきたいと考えております。

なお、このような経営環境の変化や複雑化・高度化する経営課題に対応し、迅速な意思決定と機動的な業務執行を行うため、本年定時株主総会後の取締役会において、代表取締役会長（CEO）、代表取締役社長（COO）を設置するとともに、代表取締役を1名増員し、経営体制の更なる強化を図りました。

新たな体制のもと、「C（カーボン）の可能性を追求し世界に貢献する」との経営理念に立ち返り、高機能カーボンのリーディングカンパニーとして更なる企業価値の向上に努め、社会の信頼と期待に応えていく所存です。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役会長  
兼 CEO

近藤 照久

代表取締役社長 兼  
社長執行役員 兼 COO

近藤 純子

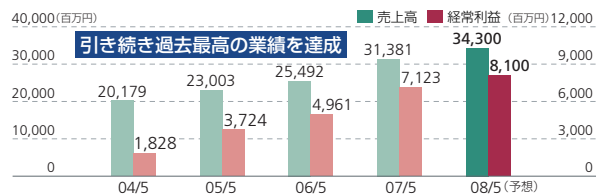
2007年8月



**Q1** 順調に業績拡大が続いていますが、市場の動向も含めてどう総括されていますか。

**A1** **社長** まず当期の業績ですが、売上高、利益ともに引き続き過去最高を更新し、売上高313.8億円（前期比23.1%増）、経常利益71.2億円（同43.6%増）と、お客様で好決算を達成することができました。振り返りますとこの3年間で売上高は1.5倍以上、経常利益で4倍近くと、大きな成長を続けています。

産業の高度化に伴って特に高機能で高品質なカーボンに対



する引き合いは、国内外含めて各分野とも一段と強さを増しており、用途領域も益々拡がりつつあります。また新興経済国を中心にグローバル市場の拡大も加速しています。

このような状況の中、私たち東洋炭素は、主力の等方性黒鉛における大幅な生産能力増強と高度な技術力を背景として、質・量ともに圧倒的な優位性を発揮することにより、拡大・高度化する需要を積極的に取り込むことができました。加えて、継続的な生産性改善や高付加価値品へのシフトを含めた価格向上等の収益極大化努力により、利益率も更に向上しています。今後とも高機能カーボンのリーディングカンパニーとして、更なる成長を目指してまいります。

**会長** 好業績であることは喜ばしいことですが、忘れてはならないのは「どこにもないモノをつくる」との創業以来のパイオニア精神です。この精神が当社の最大の特長である高付加価値化・差別化として結実し、今の好業績につながっていると確信しています。これからも今一度原点に立ち返り、このパイオニア精神を堅持して独創的で革新的な製品を生み出していく所存です。

**Q2** このたびコア事業である等方性黒鉛の大幅な生産能力増強（15,000トン体制の構築）を発表されました。その背景および概要と、今後の展望をお聞かせ下さい。

**A2** **会長** 当社は既に昨年より等方性黒鉛の設備増強を業界に先駆けて実施し、年8,000トンから11,000トンへの大幅増産を順次実現中ですが、その完成を本年2007年秋に早めるとともに、主力工場である詫間事業所に今後2年以内に新たに年4,000トン規模の新プラントを立ち上げ、年15,000トン体制を構築することとしました。2005年の8,000トン水準からするとほぼ倍増となる大幅増強ですが、私はこれでも十分ではないと考えています。

# チャレンジ精神のDNA

社長が述べた通り、高機能・高品質なカーボンを必要とする用途・領域はグローバルベースで益々広がっています。300mmウエハーを中心とする半導体関連はもちろんのこと、環境意識の高まりを受けて需要が急拡大中の太陽電池、一層の成長が期待される発光ダイオード関連を中心とする化合物半導体、更には原子力・医療関連等の新規成長分野等、当社の等方性黒鉛に対する需要は国内外において一段と拡大する見込みです。これらのグローバル市場の強い要請に応えるとともに、今後の更なる成長とグローバル展開の加速を見据えてこのたびの能力増強を決断しました。

ただし量のみを追い求めている訳ではありません。今回新設するプラントは、当社独自仕様の設備と全く新しいプロセス・ノウハウを盛り込んだ最新鋭の大型プラントとなる予定です。現在、次代を担う若手を中心としたチームで検討を進めていますが、今までにない斬新な発想とアイデアを随所に織り込んで、コスト・品質競争力の一段の強化と、更なる高機能化と差別化を図ってまいります。これにより世界最大かつ最先端の等方性黒鉛一貫工場である詫間事業所は、東洋炭素グループのグローバル戦略の基幹工場として更なる進化と拡大を遂げる計画です。この圧倒的な競争力と、他社とは一味違った差別化品を武器に、顧客の信頼を一段と高めていきたいと考えています。

**Q3** 独創的な製品・技術を生み出すことが東洋炭素の強みです。今後の新規製品・新規事業、ならびに中長期的な研究開発戦略についてお聞かせ下さい。

**A3** 社長 「どこにもないモノをつくる」ために、研究開発は当社の原点であり命です。基礎研究・応用研究・用途開発の各部署が密接に連携し、シーズとニーズ両面からアプローチを図る体制を敷いています。大学や公的機関と



の強力な連携等により高度な要素技術を蓄積、直販体制を通じて的確かつきめ細かくつかんだニーズに結び付けることにより、業界をリードする数々の独創的な成果を生んできました。原子力用黒鉛やパンタグラフ用カーボンすり板等もその成果の一つです。現段階では詳しく言えませんが、現在開発中の有望な案件も数多く控えており、今後に期待しています。

新規事業としては、まずオンサイトフッ素発生装置事業に注力しています。当期において複数件の表面処理用フッ素処理プラントの初納入を果たし、売上拡大に貢献しました。また地球温暖化防止と安全性・効率性等の観点から、半導体製造装置のクリーニングガス用として大いに期待されており、今後の本格事業展開に向け注力中です。

今後も、環境・エネルギー・エレクトロニクス「3E」を成長のキーワードとして、独創的で革新的な製品と技術を生み続けていきたいと考えています。

**Q4** このたび経営体制を刷新されました。今後の抱負と、東洋炭素の長期的なビジョンについてお聞かせ下さい。

**A4** **会長** 当社は今、大きな成長への軌道に乗っていると認識しています。当社は早くから海外展開を推進してきましたが、新興経済国の台頭を始め市場のボーダレス化は益々進展しています。私どもの舞台はあくまで世界です。今後もグローバル化を一段と加速し、新たな地域への進出も進めてまいります。またコア事業である等方性黒鉛を軸としつつ、その要素技術を活用しての新規製品・新規事業の創出にもどんどんチャレンジしていくつもりです。

ただし当社の永遠のテーマである「顧客満足度の向上」は何ら変わることはありません。「Made by TOYO TANSO」の名の下に、世界中のどこにおいても今まで以上の品質・価格・納期・技術サービスを提供していくことを誓いたいと思います。

このように当社を取り巻く経営環境はめまぐるしく変化し、それに伴って経営課題も複雑化・高度化しています。今まで以上に意思決定のスピードを速め、業務執行を機動的に行わねばなりません。一方、コーポレートガバナンスの観点から、経営責任と業務に対する執行責任を明確にすることも必要となります。このため、今般CEO、COO体制を敷くとともに、代表取締役を1名増員しました。会長は最高経営責任者（CEO）として企業戦略や経営方針を統括し、社長は最高執行責任者（COO）として事業全般を統括してまいります。社長は、既に3年に亘る執行役員体制の統括責任者として責務を果たしてきましたが、今回その位置付けを内外に向けて更に明確にした訳です。今まで以上に私ども経営陣が一丸となって、株主の皆様の期待に応えてまいります。

**社長** あらためて責任の重さを痛感しています。基本方

針・戦略については会長が述べた通りですが、それに加えて特に研究開発に力を入れ知的財産戦略を強化していくつもりです。当社にとって独創的な技術・ノウハウはまさに生命線であり、その保護ならびに更なる強化、そして戦略的活用を進める考えです。そのためにも重要なのは「人材」です。企業の持続的な成長に最も重要な財産は人です。人はアイデアを無尽に生み出し、進歩・成長します。だからこそ人は「財（たから）」であり、たとえ時間はかかってもその育成に注力する所存です。

もう一つ忘れてはならないのは「コンプライアンスの強化」です。いかなる事情があろうとコンプライアンスは全ての経営課題に優先します。どんなにいい製品を作ろうとも、コンプライアンス無き企業は社会に存在し得ません。今まで以上に内部統制システムを充実させていくとともに、社員へのコンプライアンス教育を強化していく考えです。私は社員に対し、常に「信頼（Confidence）」「誠実（Integrity）」「公正（Justice）」の3つの要素を念頭に置いて行動するよう指示しています。「社員一人ひとりの成長」と「コンプライアンスへの高い意識」、これが企業の成長と企業価値の向上につながるものと強く確信しています。

**Q5** 最後に株主の皆様一言お願いします。

**A5** **会長 社長** カーボンの可能性はいまだ未知数で、その展開領域は無限に広がっております。今後も様々な分野でカーボンが果たす役割は増え続けるでしょう。私たち東洋炭素は、高機能カーボンのパイオニアとして、そして真摯な挑戦者として、更なる成長を目指してまいりますので、より一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上

## 「嘉祥東洋炭素有限公司」の開業

中国山東省に合併で設立した「嘉祥東洋炭素有限公司」の開業식을本年5月21日に行い、本格的な事業展開を開始いたしました。

今回進出した山東省周辺は先端分野が集積しつつある注目エリアで、電力、労働力、高速道路網など充実したインフラを背景に今後の成長が大いに期待されています。同社は、中国において特に成長著しい太陽電池・半導体関連用途などの高機能分野に特化した特殊黒鉛製品の製造・販売を担い、今後加速するグローバル展開の重点戦略拠点として位置付けてまいります。



## ブラシ開発部門の強化

平成18年12月1日付で、当社完全子会社の東炭化工株式会社から、ブラシ開発部門およびブラシ原料製造部門を、会社分割により承継いたしました。

この事業再編により、ブラシ事業における材料開発の強化・スピードアップと、原料製造技術の強化を図るとともに、さらなるグローバル展開とシェア拡大を進め、家電モーター用小型カーボンブラシ分野におけるリーディングカンパニーとしての地位を一層盤石なものにしてまいります。



## 日本原子力研究開発機構と共同研究を開始

独立行政法人日本原子力研究開発機構と共同で、高温ガス炉用黒鉛材の高温・重照射データベースを世界に先駆けて構築するための研究を開始しました。

当社の高純度等方性黒鉛材IG-110は、その優れた特性から、すでに同機構の高温工学試験研究炉 (HTTR) に採用され、高速中性子の照射データを蓄積しております。今後導入される実用高温ガス炉 (VHTR) においては更に高い照射量でのデータが必要となることから、このたび同機構と包括的な研究協力協定を締結し照射データベースの拡充を図ることとしました。

現在、地球温暖化による環境危機が叫ばれ、原子力発電への見直し機運が世界的に高まりつつありますが、高温ガス炉は、安全性・効率性・経済性に優れることに加え、取り出された高温の熱を有効利用できる点から、次世代の革新的原子炉として注目されております。この成果を契機として、高温ガス炉の世界的導入が進展し、地球環境保護に貢献できることを期待しております。



IG-110 黒鉛ブロック

## 株式分割の実施

投資家の皆様に投資していただきやすい環境を整え、流動性の向上と投資家層の拡大を図ることを目的として、平成19年5月31日時点の株主の所有株式1株を1.5株とする分割を実施いたしました。この分割により、発行済株式総数は20,750,688株となりました。



## 特殊黒鉛



ヒーター

半導体のチップとなるシリコン単結晶を製造する際に、大型、目つ高純度の黒鉛ヒーターや、その他多くの高純度黒鉛部材が使用されています。



放電加工用電極

放電加工機で金型を作成する際に、製品形状の加工電極として黒鉛が使用されます。黒鉛は銅電極に比べ機械加工がし易く、放電加工速度も速いという特長があります。



原子力用炉心材

黒鉛のもつ数々のユニークな特性に加え、耐放射線性やプラズマ特性を活かし、高温ガス炉の炉心材や核融合炉の炉壁として使用されています。

## 機械用カーボン



ベアリング

カーボンベアリングは、自己潤滑性、耐熱性、耐薬品性に優れています。これらの特性を活かして、厳しい環境下での用途で使用されます。



パンタグラフ用すり板

パンタグラフの上部に取り付けられ、架線から電車に電気を取り入れる部材として使用されます。金属質のものに比べ架線損傷が少なくなります。



小型プラスチック

モーターの回転体に摺動しながら電気を供給する部品で、掃除機、電動工具等のモーターや自動車電装用モーターに使用されます。

## 複合材その他製品



SiCコーティング製品

黒鉛の特長を活かしながら、耐酸化性や、ガス放出などの特性を改善した材料です。半導体ウエハーの表面に成膜する工程などで、炭化珪素で被覆された色々な形状の製品が使用されています。



C/Cコンポジット製品

炭素材料の強度、耐衝撃性などの向上を目的に、高強度炭素繊維で補強された炭素複合材料であり、宇宙航空、半導体製造、一般工業炉分野などで使用されています。



黒鉛シート製品

シート状の軽量の製品で、ガasket等の自動車部品に使用されます。今後は、ヒートシンク等の熱対策分野での応用も期待され、化学プラント等におけるアスベスト代替品の有力製品としても注目されています。

## シリーズ

高機能

カーボン はここに!

## 携帯電話編

今や私たちの生活にはなくてはならない携帯電話。今回は、携帯電話がみなさんの手元に届くまでに、様々な製造工程で使われているカーボン製品についてご紹介します。



ご存知のように携帯電話には多くの半導体部品が使用されています。この半導体部品の材料となっているシリコンウエハーの製造に欠かせないのが、高機能カーボンです。その優れた耐熱性から約1,600度にもなる製造工程において使用されています。また、液晶ディスプレイやバックライト用LED、半導体が電子回路と信号をつかさどる金属端子であるリードフレームの製造にも同様に高機能カーボンが使われています。さらに携帯電話には、そのボディを主として多くのプラスチック部品が使われていますが、その成型に必要な金型の製造にも高機能カーボンが使用されています。カーボンを使用することで金型が高精度化されるうえにコストを低減することが可能なため、金型製造におけるカーボンの使用量は益々拡大中です。加えて、最近の極薄型携帯電話には、当社の黒鉛シートが放熱用部品として採用されています。

この様にカーボンは、私たちの豊かな生活を陰ながら、でもしっかりと支えています。



## 平成19年5月期 連結業績概要

当連結会計年度の日本経済は、原油等の原燃料価格の高騰の影響はありましたが、好調な企業収益を背景に設備投資が高水準であった他、個人消費も底堅く推移する等、景気は穏やかながら拡大基調で推移いたしました。また海外経済についても、アジアを牽引役として総じて堅調に推移いたしました。このような状況の中、当企業グループは特に主力製品である等方性黒鉛製品において、年度後半より順次実現した生産能力の増強を背景として、国内外の旺盛な需要を積極的に取り込むとともに、高品質、高機能製品の開発と新規用途開拓に取り組み、高付加価値、成長分野へのシフトを引き続き推進いたしました。加えて、徹底した生産性改善と、高付加価値化を含めた販売価格向上に注力することにより、更なる収益の向上に努めました。

	当 期 (平成18年6月1日から 平成19年5月31日まで)	ご参考	
		前 期 (平成17年6月1日から 平成18年5月31日まで)	対前期比
売上高	31,381 百万円	25,492 百万円	23.1 %増
営業利益	6,925 百万円	4,955 百万円	39.7 %増
経常利益	7,123 百万円	4,961 百万円	43.6 %増
当期純利益	4,439 百万円	2,769 百万円	60.3 %増

## 製品別概況

### 特殊黒鉛製品

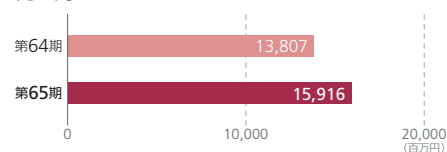
#### エレクトロニクス分野

- 単結晶シリコン製造用途：300mmウエハー製造ラインの増設を背景に需要が大幅拡大
- 太陽電池製造用途：世界的な環境意識の高まりを背景に需要が大幅拡大

#### 一般産業分野

- 金型製造用の放電加工用電極が国内外で伸長
- 連続鋳造用を始めとする冶金関連ならびに工業炉関連での需要が増加

### ▽ 売上高



### 一般カーボン製品

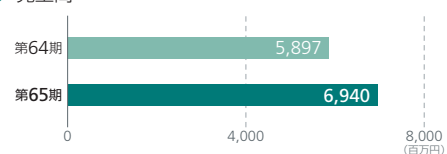
#### 機械用カーボン分野

- 一般産業機械用途：底堅い設備投資と石油プラント等の稼働率アップを背景に需要が増加、省エネ、環境意識の高まりからエコ対応給湯器関連需要も伸長
- バンタグラフ用すり板：高シェアを有する既存顧客の更新需要ならびに大手私鉄、新交通への参入により順調に拡大

#### 電気用カーボン分野

- 家電モーター用小型カーボンブラシ：顧客企業の中国生産シフトが進展する中で、中国の現地法人を核とした増加需要を積極的に取り込むとともに電動工具、洗濯機向けの拡販が進む

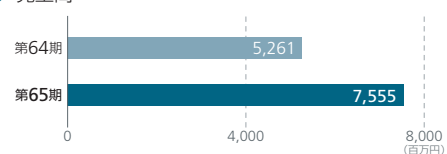
### ▽ 売上高



### 複合材その他製品

- SiCコーティング黒鉛製品：エレクトロニクス関連市場の好調を受けて、特に化合物半導体向けを中心に国内外ともに需要が増加
- C/Cコンポジット製品：半導体、太陽電池関連市場の伸長等により堅調に推移
- 黒鉛シート製品：半導体関連を中心に需要が拡大
- オンサイトフッ素発生装置：一般産業向けにおいて大型フッ素処理プラントの納入を実現

### ▽ 売上高



連結貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

	当期末 (平成19年5月31日現在)	前期末 (平成18年5月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	32,852,928	26,443,455
固定資産	21,977,717	18,669,266
有形固定資産	19,633,011	15,804,019
無形固定資産	287,026	259,072
投資その他の資産	2,057,678	2,606,174
資産合計	54,830,645	45,112,721
<b>負債の部</b>		
流動負債	10,861,789	9,993,413
固定負債	2,582,262	3,941,627
負債合計	13,444,052	13,935,041
<b>純資産の部</b>		
株主資本	40,740,858	31,057,077
評価・換算差額等	245,509	△ 196,716
少数株主持分	400,224	317,319
純資産合計	41,386,593	31,177,680
負債・純資産合計	54,830,645	45,112,721

連結損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

	当 期 (平成18年6月1日から 平成19年5月31日まで)	前 期 (平成17年6月1日から 平成18年5月31日まで)
売上高	31,381,259	25,492,527
売上原価	18,853,152	15,864,772
売上総利益	12,528,106	9,627,754
販売費及び一般管理費	5,602,463	4,671,929
営業利益	6,925,643	4,955,825
営業外収益	425,397	258,733
営業外費用	227,212	252,960
経常利益	7,123,828	4,961,598
特別利益	586,556	19,466
特別損失	195,394	65,316
税金等調整前当期純利益	7,514,989	4,915,748
法人税、住民税及び事業税	2,746,741	2,107,192
法人税等調整額	242,426	△ 29,623
少数株主利益	86,238	69,127
当期純利益	4,439,582	2,769,051

## 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：千円)

	当期	前期
	(平成18年6月1日から 平成19年5月31日まで)	(平成17年6月1日から 平成18年5月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	4,993,152	2,554,184
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,635,659	△ 8,036,424
財務活動による キャッシュ・フロー	3,292,037	8,016,148
現金及び現金同等物に 係る換算差額	41,804	80,898
現金及び現金同等物の 増加額 (△減少額)	6,691,334	2,614,806
現金及び現金同等物の 期首残高	4,867,225	2,031,692
新規連結子会社の現金及び 現金同等物の期首残高	—	220,726
現金及び現金同等物の 期末残高	11,558,559	4,867,225

### Point ① …… 資産

キャッシュ・フロー増による現金及び預金3,571百万円の増加、売上高拡大に伴う受取手形及び売掛金1,658百万円の増加、および製造設備の増設等に伴う有形固定資産3,828百万円の増加等により、資産合計は9,717百万円増加。

### Point ② …… 負債・資本等

有形固定資産の購入に伴う未払金449百万円の増加および設備関係支払手形733百万円の増加。一方、長期・短期借入金1,813百万円の減少等により、負債合計は490百万円減少。

公募増資等に伴う資本金・資本剰余金5,384百万円の増加、当期純利益4,439百万円の計上等により、純資産は10,208百万円増加。

### Point ③ …… 損益

生産能力の増強を背景として、国内外の旺盛な需要を取り込むとともに、徹底した生産性改善と高付加価値化を含めた販売価格向上に注力することにより、収益向上に努めた結果、売上高5,888百万円増加、営業利益1,969百万円増加、経常利益2,162百万円増加、当期純利益1,670百万円増加。

## 連結株主資本等変動計算書 (要旨)

(平成18年6月1日から平成19年5月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算 差額等	少数 株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式				
平成18年5月31日 残高	5,000,075	6,842,786	19,223,421	△ 9,205	31,057,077	△ 196,716	317,319	31,177,680
連結会計年度中の変動額								
新株の発行	2,692,500	2,691,900			5,384,400			5,384,400
剰余金の配当			△ 133,265		△ 133,265			△ 133,265
利益処分による従業員賞与 <sup>(※)</sup>			△ 6,826		△ 6,826			△ 6,826
当期純利益			4,439,582		4,439,582			4,439,582
自己株式の取得				△ 109	△ 109			△ 109
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額 (純額)						442,226	82,905	525,132
連結会計年度中の変動額合計	2,692,500	2,691,900	4,299,490	△ 109	9,683,781	442,226	82,905	10,208,913
平成19年5月31日 残高	7,692,575	9,534,686	23,522,911	△ 9,314	40,740,858	245,509	400,224	41,386,593

(※) 中国子会社および台湾子会社の利益処分による支払決議に伴うものであります。

貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

	当期末 (平成19年5月31日現在)	前期末 (平成18年5月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	26,891,556	22,459,490
固定資産	20,321,967	16,842,288
有形固定資産	15,105,773	11,434,496
無形固定資産	107,786	71,611
投資その他の資産	5,108,408	5,336,180
資産合計	47,213,524	39,301,778
<b>負債の部</b>		
流動負債	8,820,025	8,323,035
固定負債	1,239,758	2,478,367
負債合計	10,059,784	10,801,402
<b>純資産の部</b>		
株主資本	37,128,431	28,468,545
評価・換算差額等	25,309	31,830
純資産合計	37,153,740	28,500,376
負債・純資産合計	47,213,524	39,301,778

損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

	当期 (平成18年6月1日から 平成19年5月31日まで)	前期 (平成17年6月1日から 平成18年5月31日まで)
売上高	23,807,440	20,414,466
売上原価	15,064,465	13,522,327
売上総利益	8,742,974	6,892,139
販売費及び一般管理費	3,781,997	3,245,327
営業利益	4,960,977	3,646,811
営業外収益	374,575	265,537
営業外費用	143,672	147,167
経常利益	5,191,879	3,765,180
特別利益	559,413	4,564
特別損失	57,352	46,442
税引前当期純利益	5,693,941	3,723,301
法人税、住民税及び事業税	2,250,000	1,740,000
法人税等調整額	35,080	△ 47,483
当期純利益	3,408,860	2,030,785

株主資本等変動計算書 (要旨)

(平成18年6月1日から平成19年5月31日まで)

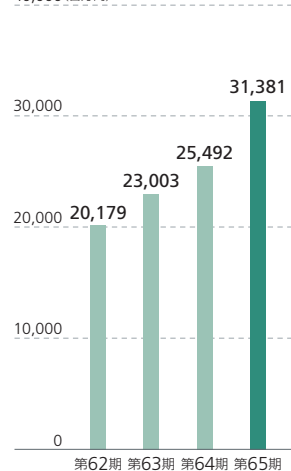
(単位：千円)

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算 差額等	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式			
平成18年5月31日 残高	5,000,075	6,842,786	16,634,888	△ 9,205	28,468,545	31,830	28,500,376
事業年度中の変動額							
新株の発行	2,692,500	2,691,900			5,384,400		5,384,400
剰余金の配当			△ 133,265		△ 133,265		△ 133,265
当期純利益			3,408,860		3,408,860		3,408,860
自己株式の取得				△ 109	△ 109		△ 109
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)						△ 6,521	△ 6,521
事業年度中の変動額合計	2,692,500	2,691,900	3,275,595	△ 109	8,659,885	△ 6,521	8,653,364
平成19年5月31日 残高	7,692,575	9,534,686	19,910,483	△ 9,314	37,128,431	25,309	37,153,740



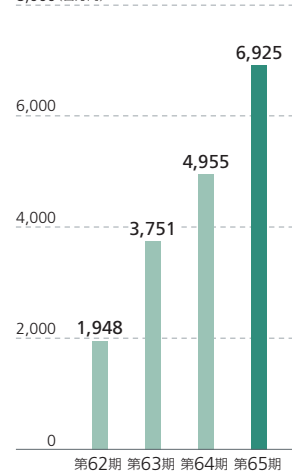
売上高

40,000 (百万円)



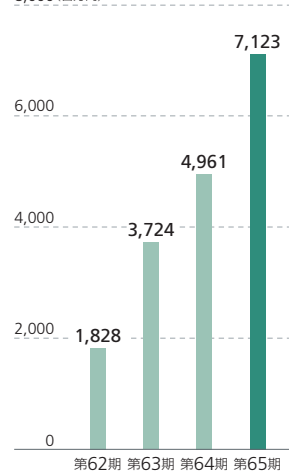
営業利益

8,000 (百万円)



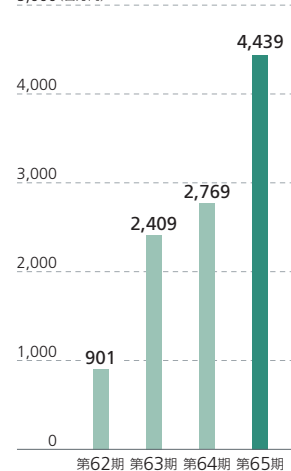
経常利益

8,000 (百万円)



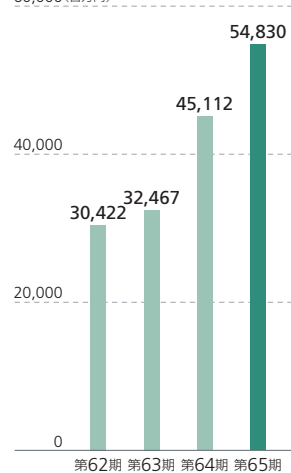
当期純利益

5,000 (百万円)



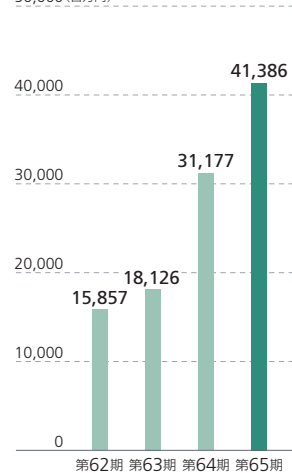
総資産

60,000 (百万円)



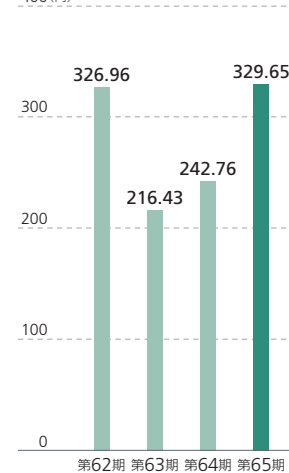
純資産

50,000 (百万円)



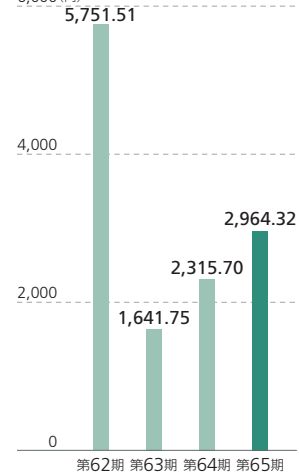
1株当たり当期純利益

400 (円)



1株当たり純資産

6,000 (円)



(※) 当社では、第63期 (平成16年12月22日) に1:4の株式分割を行っております。

## 事業拠点

(平成19年5月31日現在)

## □ 国内事業所

本社・大阪営業所・海外営業部・FC事業部

〒555-0011 大阪市西淀川区竹島5-7-12

東京営業所

〒103-0027 東京都中央区日本橋1-2-19 (日本橋ファーストビル)

東北営業所

〒981-3133 仙台市泉区泉中央3-16-1 (ケーツールビル)

つくば営業所

〒300-3261 茨城県つくば市花畑2-15-8

北陸営業所

〒939-8074 富山県富山市大町南台48-7

静岡営業所

〒426-0201 静岡県藤枝市下敷田80-13

名古屋営業所

〒460-0003 名古屋市中区錦1-3-7 (SK名古屋ビル)

広島営業所

〒732-0045 広島市東区曙4-4-25

四国営業所

〒769-1612 香川県観音寺市大野原町中姫2181-2

九州営業所

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-9-11 (山善ビル)

大野原技術開発センター

〒769-1612 香川県観音寺市大野原町中姫2181-2

詫間事業所

〒769-1102 香川県三豊市詫間町松崎2791

萩原工場

〒769-1614 香川県観音寺市大野原町萩原850-1

いわき工場

〒970-1144 福島県いわき市好間工業団地1-31

## □ 国内関係会社

東炭化工株式会社

〒769-0401 香川県三豊市財田町財田上1335-22

大和田カーボン工業株式会社

〒561-0821 大阪府豊中市日出町2-1-16

## □ 海外主要関係会社

TOYO TANSO USA, INC. (アメリカ)

TOYO TANSO EUROPE S.P.A. (イタリア)

GRAPHITES TECHNOLOGIE ET INDUSTRIE S.A. (フランス)

GTD GRAPHIT TECHNOLOGIE GMBH (ドイツ)

SHANGHAI TOYO TANSO CO., LTD. (中国)

SHANGHAI TOYO TANSO INDUSTRIAL CO., LTD. (中国)

SHANGHAI YONGXIN TOYO TANSO CO., LTD. (中国)

JIAXIANG TOYO TANSO CO., LTD. (中国)

TOYO TANSO TAIWAN CO., LTD. (台湾)

TOYO TANSO KOREA CO., LTD. (韓国)

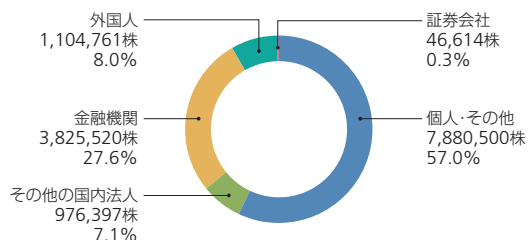
## 株式の状況

(平成19年5月31日現在)

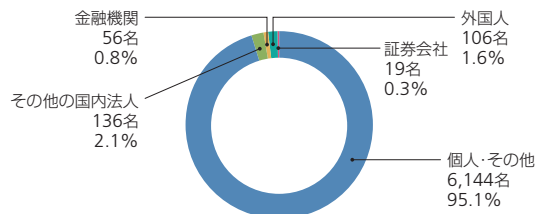
発行済株式の総数	13,833,792株
単元株式数	100株
株主数	6,461名
大株主	

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
近藤 純子	1,861	13.45
近藤 照久	1,669	12.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,211	8.75
近藤 朋子	1,040	7.52
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	818	5.91
近藤 尚孝	809	5.85
財団法人近藤育英会	556	4.01
近藤 孝子	355	2.56
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託口)	298	2.15
株式会社みずほ銀行	240	1.73
株式会社三菱東京UFJ銀行	240	1.73
株式会社百十四銀行	224	1.61

## 所有株式数別株主分布状況



## 所有者数別株式分布状況



## 会社概要

(平成19年5月31日現在)

設立	昭和22年7月31日
本社	〒555-0011 大阪市西淀川区竹島5-7-12
資本金	7,692,575,648円
従業員数	854名(単体) 1,662名(連結)

## 役員

(平成19年8月30日現在)

代表取締役会長 最高経営責任者(CEO)	近藤 照久
代表取締役社長 最高執行責任者(COO)	近藤 純子
代表取締役副社長	近藤 尚孝
取締役	平賀 俊作
取締役	栗本 忠弘
取締役	澤村 文雄
取締役	東城 哲朗
常勤監査役	加藤 澄雄
監査役	福井 進吾
監査役	江戸 忠一
監査役	田辺 陽一

(注) 監査役 福井進吾氏、江戸忠氏および田辺陽一氏は社外監査役であります。

## ホームページのご案内

当社はホームページにおきましても最新のトピックスをはじめとして、業務報告や会社情報などさまざまな情報をご案内しております。

<http://www.toyotanso.co.jp>



## 株主メモ

---

事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで  
定時株主総会 毎年8月  
基準日  
定時株主総会 毎年5月31日  
期末配当 毎年5月31日  
中間配当 毎年11月30日  
公告方法 当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、  
事故その他やむを得ない事由によって電子公告  
による公告をすることができない場合は、日本  
経済新聞に掲載して行う。

電子公告掲載  
ホームページアドレス <http://www.toyotanso.co.jp>

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区北浜二丁目2番21号  
中央三井信託銀行株式会社 大阪支店

郵便物送付先 〒168-0063  
電話お問い合わせ先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
(証券代行事務センター)  
電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

上場証券取引市場 東京証券取引所市場第一部  
証券コード 5310



<http://www.toyotanso.co.jp>